

H25

平成25年度補正
中小企業・小規模事業者
ものづくり・商業・
サービス革新事業

竹下木材有限会社

■事業

新たな製材方法導入と乾燥方法改良により
高品質内装材の商品開発

■対象類型

革新的サービス

■導入機械装置

木材乾燥装置SDM×900SL

中国山地の良質な木材を各地に提供
社寺仏閣や重要文化財にも納入

【経営理念】

中国山地の森林を守り、磨き上げた技術で、顧客のニーズにあった選りすぐりの木材を提供する。

日本有数のマツどころとして豊富な資源量を誇る中国山地。その中国山地と日本海を臨む大田市に拠点を置く竹下木材有限会社は、マツとヒノキをメインに選りすぐりの木材を作り出す製材会社として、関西から中部地方まで各地に名が知れ渡っている。近年は、深刻な松くい虫被害や、戦後植林された針葉樹が伐期を迎えていることなどを背景に、マツに加え、ヒノキやスギを扱う量も増加。一般住宅はもちろん、著名な社寺仏閣や重要文化財住宅などに納入してきた実績を生かし、新乾燥機の導入によりさらなる需要拡大に力を入れている。

同社の強みの一つは、特殊材への対応力。数が少ない大径木や特殊な木も仕入れられるネットワークを持っているため、多様なニーズに対応できる。また、特殊材加工も行える4面プレーナーなどの加工設備に加え、乾燥機も複数台保有しており、木種や用途に応じてスピーディーかつ細やかに対応できる技術力にも秀でている。

仕上げの美しさが問われる造作材にも注力
設備導入で、新たな乾燥プログラムを構築

近年受注が増加傾向にあるのが、無垢フローリングなどに使われる造作材。梁や桁などの構造材に加え、7、8年前から加工に力を入れてきたが、実績が評価されて販路も受注数も拡大してきた一方、扱う職人の数が減ってきているのが課題だった。仕上げ材とも言われるだけあって、品質はもちろん、見た目の美しさも問われる造作材。乾燥の温度管理にも一層気をを使う必要がある。そこで、低温・長時間乾燥を行える木材乾燥機の増設と、既存乾燥機との連結で新たな乾燥プログラムを構築。製材過程で出る木くずを活用したバイオマス燃料を主体に、高品質商品を開発することを目指した。

高温乾燥は、素早く乾くメリットがある一方、木本来の色つやが失われるデメリットがあったが、乾燥方法を改良したことで、色つやの良い高品質の商品が完成。リードタイム短縮やコスト削減にもつながった。竹下哲史社長は、「木の大きさや種類によって乾燥スケジュールが違う。今回乾燥機を新たに加え、保有台数



作業の様子

☐ ものづくり技術 ☒ 革新的サービス



1 導入した木材乾燥装置
2 乾燥した木材は丁寧に加工される



は3台になり、多品種小ロットの需要に短納期で応えられるようになった」と話す。仕上げ材だけでなく、構造材も加工しやすい体制が整ったため、販路や売り上げも大幅に伸びたという。

スギの大径木を生かした新商品も開発
アイテム増やして需要の掘り起こし狙う

30センチを超える大きな径のスギを活用した新商品開発にも挑戦している。作業効率が悪く、歩留まりも低い大径木は、敬遠されがちだったが、大きいがゆえに、木材の割れにつながりやすい芯の部分を外して製材することが可能になった。さらに節が出にくいきれいな材料を取ることができるため、仕上げ材に使うのにぴったりともいえる。

全国的に、新築住宅の着工が低迷する中、注目を集めているのがリノベーション。「技術力を一層磨いて仕上げ材のレベルを上げるとともに、提案できるアイテムを増やしたりして需要の掘り起こしを強化したい。県産の丸太をしっかりと使って林業に貢献できる会社でありたい」。3代目を担う竹下社長が力強く語った。

■Company Data

竹下木材有限会社



竹下木材

代表者名：竹下哲史
設立年：1965(昭和40)年
資本金：46,000千円
従業員数：9名
主たる業種：木材・木製品製造業
本社：〒694-0053 大田市鳥井町鳥越413-4
電話：0854-82-0353
FAX：0854-82-1905
URL：http://takeshitamokuzai.jp/